

いかに継続するのか

町長選にチャレンジする



はまむら ひろし 議員
濱村 博

される。そして、その生産活

動を通じ、頂いた税で社会的

弱者と呼ばれる方々に対する

福祉がしっかりと確立され、

併せて地域づくりを行うこと

が黒潮町の将来の姿であると

考えてきたが、平成23年3月

の東日本大震災の発災、平成

24年3月に内閣府が示した新

想定において、黒潮町の各種

業務のうち防災分野に人的資

源および財政的資源を傾斜配

分しなければならぬ状況に

置かれた。

人的資源は、東日本大震災

を受け、直ちに防災業務の推

進体制の整備について協議を

開始し、総務課が所管してい

た防災業務を情報防災課およ

び南海地震対策係として、平

成24年度当初に新たに設置す

るとともに地域担当制もスタ

ートし、防災推進体制の整備

を行ってきた。

住宅耐震、避難道、避難タ

ワー、避難誘導標識の整備、

防災倉庫の設置には、平成22

年度から平成28年度までの7

年間の決算ベースで約40億の

支出となっている。

連年の大規模な支出の事業

実施についての財政資源は、

新設された緊急防災・減災事

業債ならびに高知県津波避難

対策等加速化臨時交付金を最

大限活用したので、交付税お

よび交付金として後年収入見

込額を除いた全体事業費の約

2%、8千万円が実質的な町

の負担額ということになり、

この間、膨大な防災事業を实

施してきたが、7年間では、

単年度1千万円強の負担であ

り、突出した防災財政事業期

間であったにもかかわらず、

最小限の負担で乗り切れた。

結果、財政的に主な指標は

すべて改善され、財政的体力

は相当増してきた。

問 2期8年の町行政で、ス
ピード感を持って進めていか
なければならぬことも多
く、苦労もあったのではない
かと思うが、町長として目標
としてきたことは、何だった
のか。また、具体的にどのよ
うに取り組みをし、その結果
をどう評価しているか。

答 大西町長

家計を預かる現役世代がし
っかりと生産活動を行い、そ
の対価を持って子育てや教育
にしつかりと家計内で投資が

行ってきた。

右は、国内最大級となった
佐賀津波避難タワー。
この他、町内には5基の避
難タワーが建設された。



高台に完成した新庁舎(平成29年12月7日)

問 大西行政は、住民が黒潮
町で暮し続けていくため、ど
う継続し、どう進めていくの
か。

答 大西町長

現在世代への各種住民福祉
施策の質の向上と併せて、中
期的視野に立ち、黒潮町の将
来を建設していくという姿勢
を忘れてはならないと考えて
いる。単なる理念にとどまら
ず、しっかりと検証を踏まえ
実行できるよう、現在、総合

戦略、福祉計画、教育計画、
防災計画の取りまとめを行っ
ている。

今後は、各種計画の見直し

を掛けながら、常に新しいこ

とにチャレンジしていく姿勢

を組織として定着させたい。

本格的な取り組みはこれか

らとなり、引き続き、その職

責を担わせていただけるよ

う、来年4月に予定されてい

る町長選挙にチャレンジさせ

ていただく決意を新たにしてい

る。